



中小企業のAI等の利活用に係る実態調査 (2026年3月)

調査結果のポイント

- AIの導入率は2割を超え、情報通信業や総務・管理部門を中心に導入が進んでいる。
 なお、導入済み企業では特に「生成AI」の活用が進んでいる。
- AIの導入目的は「業務効率化／作業時間の短縮」が8割を超え最多となり、加えて増収企業では「品質向上」も重視される傾向にある。
- AIの導入効果は「業務効率化／作業時間の短縮」が突出して評価されているほか、「付加価値創出」においては従来のIT活用より高い評価を得る結果となっている。
- AIへの社内理解は一定程度あるとされるが必要な情報に不足の面も。費用助成とともに「導入事例」「活用事例」などの情報ニーズも高い。

(1) 調査概要

- 調査期間：令和7年11月17日～12月12日
- 調査方法：Webアンケート
- 調査対象：全国の中小企業 10,000社

(中小企業基本法における中小・小規模企業の定義に基づく)

図表1 調査対象業種の構成比

業種	配布数	有効回収数	有効回収率
建設業	1,360	249	18.3%
製造業	1,074	197	18.3%
情報通信業	176	33	18.8%
運輸業	208	31	14.9%
卸売業	648	124	19.1%
小売業	1,684	259	15.4%
不動産業、物品賃貸業	1,036	159	15.3%
学術研究、専門・技術サービス業	650	135	20.8%
宿泊業、飲食サービス業	1,358	170	12.5%
生活関連サービス業、娯楽業	1,058	176	16.6%
教育、学習支援業	302	61	20.2%
その他	446	74	16.6%
計	10,000	1,668	16.7%

<本調査におけるAI・ITの範囲について>

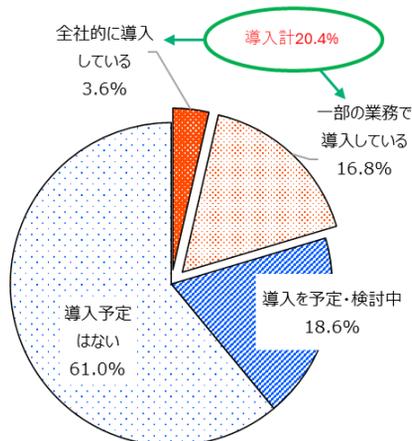
AIの範囲：AI技術を用いたサービス（例：画像認識、音声認識、生成AIなど）

ITの範囲：業務効率化や生産性向上を目的としたITツール・サービス（例：RPAなど）

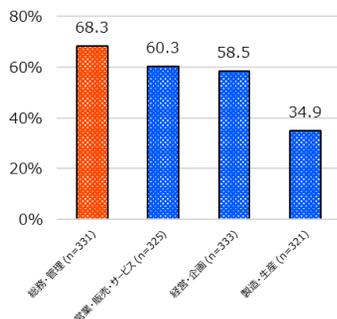
(2) AIの導入率は2割を超え、特に総務・管理部門などの業務分野で導入が進む

AIの導入率（「全社的に導入している」と「一部の業務で導入している」の合計）は20.4%であり、導入を検討している企業（18.6%）と合わせると、全体の39.0%がAIの導入に前向きな結果を示している。業務分野別のAI導入率は、[総務・管理部門]（68.3%）が最多となり、次いで[営業・販売・サービス部門]（60.3%）、[経営・企画部門]（58.5%）、[製造・生産部門]（34.9%）の順である。なお、AI導入済みの企業では「生成AI」（82.6%）が最も利用されており、次に導入率が高い「音声認識・音声対話AI」（29.8%）と比べても、特に導入が進んでいる結果となっている。

図表2 AIの導入状況 (n=1,647)



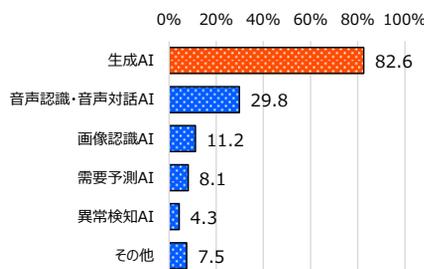
図表3 業務部門別のAI導入率



<業務分野例>

総務・管理：バックオフィスに関する業務分野
 営業・販売・サービス：顧客対応、フロントに関する業務分野
 経営・企画：経営の意思決定に関する業務分野
 製造・生産：開発、調達、在庫管理等を含む業務分野

図表4 導入済みのAIサービス (n=322)



<AIサービス・ツール例>

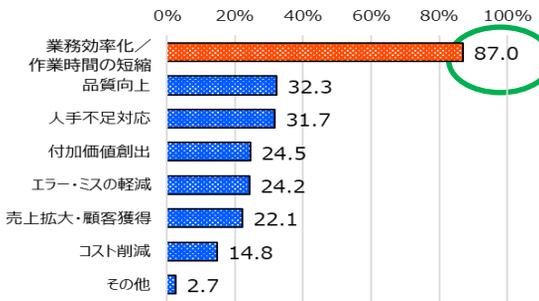
生成AI：文章・資料作成、アイデア出し
 音声認識・音声対話AI：議事録作成、自動応答
 画像認識AI：外観検査、不良品検出
 需要予測AI：販売・在庫最適化
 異常検知AI：設備保全、予防保守

(3)AIの導入目的は「業務効率化／作業時間の短縮」が8割を超え最多

AIの導入目的は「業務効率化／作業時間の短縮」（87.0%）が最も多く、2位の「品質向上」（32.3%）と比べ、50ポイント以上の差があり、業務効率化への期待が表れている。

なお、企業の直近3年間の売上推移別に導入目的をみると、「品質向上」は増収傾向の企業（38.6%）において重視されており、減収傾向の企業（26.4%）および横ばい傾向の企業（29.0%）に比べて優先度の高い導入目的となっている。

図表5 AIの導入目的 (n=331)



図表6 売上推移別AIの導入目的 (n=331)

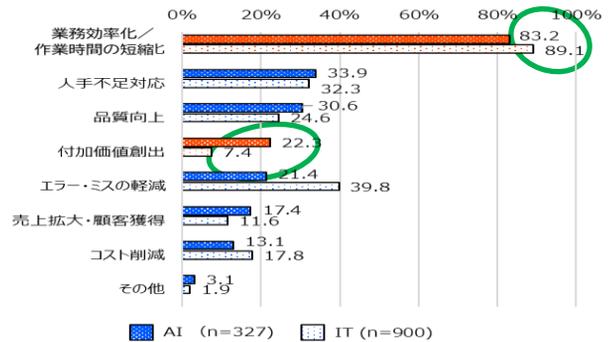
売上推移	全体的な割合 (%)	業務効率化／作業時間の短縮 (%)	品質向上 (%)	人手不足対応 (%)	付加価値創出 (%)	エラー・ミスの軽減 (%)	売上拡大・顧客獲得 (%)	コスト削減 (%)	その他 (%)
全体	331	87.0	32.3	31.7	24.5	24.2	22.1	14.8	2.7
増収傾向	127	116 (91.3)	49 (38.6)	45 (35.4)	39 (30.7)	31 (24.4)	33 (26.0)	19 (15.0)	2 (1.6)
横ばい	131	109 (83.2)	38 (29.0)	42 (32.1)	26 (19.8)	32 (24.4)	24 (18.3)	19 (14.5)	6 (4.6)
減収傾向	72	62 (86.1)	19 (26.4)	17 (23.6)	15 (20.8)	16 (22.2)	15 (20.8)	10 (13.9)	1 (1.4)

(4)AIの導入効果として「付加価値創出」はITよりも高評価

AIの導入効果は「業務効率化／作業時間の短縮」（83.2%）以下「人手不足対応」（33.9%）、「品質向上」（30.6%）と続いており、AIの導入の結果、業務の効率化に突出して効果があったことが認められる。

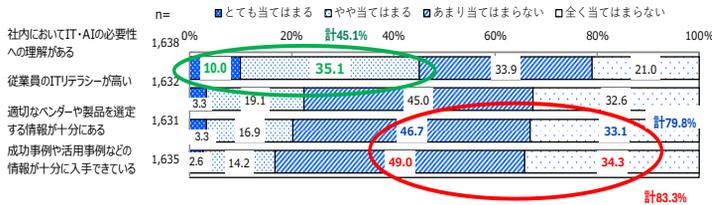
一方でITの導入効果と比較すると「付加価値創出」の効果はAI（22.3%）がIT（7.4%）を約15ポイント上回る結果となっており、「付加価値創出」においては、AIが従来のIT活用より高い評価を得る結果となっている。

図表7 AI・ITの導入効果

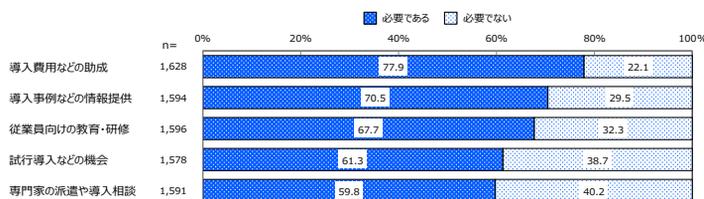


(5)AIをめぐる情報不足を背景に、活用事例などの情報提供が費用助成とともに高いニーズ

図表8 社内の理解度や情報量



図表9 導入を推進するために必要な公的支援



AI・IT導入にかかる社内理解や情報量については、一定程度の理解はあるとされるものの（45.1%）、「成功事例や活用事例などの情報」が不充足項目としては最も高く（83.3%）、「適切なベンダーや製品を選定する情報」の不足が次ぐ（79.8%）結果となっている。

求められる公的支援ニーズとしても、「導入事例などの情報提供」（70.5%）が「導入費用などの助成」（77.9%）に次いでおり、各種情報を求めている中小企業の実情を見定めた支援策の提供が求められているといえよう。